

## 青森中央短期大学の将来ビジョン2018

### 「情熱あふれるプロフェッショナルを輩出し、ともに地域といきる大学」をめざして

青森中央短期大学は、昭和 45 年の開学より、「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」の建学の精神のもと、「価値観の多様性を理解する豊かな人間性」と「自立していくために必要な実学」を身につけることを教育理念としてきた。時代とともに移り変わる社会の要請に柔軟に応え、これまでに地域に必要とされる専門職約 8,800 名(平成 30 年度時点)を輩出し、地域社会に密着し、地域社会への貢献を大切にしてきた。

平成 24 年度からは、将来構想プロジェクト(現将来構想委員会)を発足させ、平成 28 年度には、「学生を確実に成長させ自立に導く教育、地域に頼りにされる大学」をめざし、青森中央短期大学中期計画「こぶしの花プラン(2016～2020 年度)」を策定し、現在、目標の実現へ向けて遂行中である。

近年、社会構造の変革は一段と著しく、「地方創生」、「人生 100 年時代」をキーワードに、短期大学の果たす役割も多様性が求められてきた。この新たな変革にも対応するために、教育の対象を在學生に限らず、社会人の学び直しや子どもからお年寄りに至る青森県民の生涯学習に広げ、公開講座や出前講座および様々なメディアを活用して、「青森県民の学びの場」となるべく、本学の研究成果や最新の知見を発信していく。さらに、青森県の抱える地域課題を分析し、解決策を提案することで、健康面、生活面、経済面、すべてにおいて、「青森県を元気にできる大学」として、青森県の活性化に寄与していく。

このたび、青森中央短期大学の将来ビジョンを策定するに当たり、建学の精神「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」に立ち返り意見交換したところ、建学の精神の普遍性に気づかされた。そこで、建学の精神に含まれる概念と時代のニーズを掛け合わせ、これからの約 10 年間で展望した建学の精神の表現方法を検討した。検討を重ねた結果、「愛あれ」からは「溢れんばかりの情熱(Passion)の発揮」、「知恵あれ」からは「確固たる能力(Competency)の獲得」、「真実あれ」からは「社会全体の幸せ(Well-being)の達成」ということを導き出した。より単純に表現すれば、「情熱と能力をもって、社会の幸せの達成をめざす」である。このことから本学が育成する人材は、人、自然、文化、伝統、地域に対して関心を持ち、深く理解し、地域社会が最善の状態でも継続できるように、修得した知識をそれらの対象、時代の要請に応じて調整しながら、貢献できる人材である。言い換えれば、青森を愛し、青森のために、学び得た専門性を活かす人材を育成することである。

これらをまとめて本学の将来ビジョンを「情熱あふれるプロフェッショナルを輩出し、ともに地域といきる大学」をめざすことと掲げる。